まちづくり活動の活性化に向けた仕掛けづくりに関する一考察
～　寺井地区（石川県能美市）を例に　～

㈱国土開発センター　正会員　稲田 裕介
㈱国土開発センター　正会員　辰野　肇
能美市役所　非会員　佐賀 厚志
(公財)いしかわまちづくり技術センター　非会員　浅永　将

１．はじめに

伝統工芸品九谷焼の一産地として，明治時代には「ジャパンクタニ」を海外に轟かせた石川県能美市寺井地区において，住民主体のまちづくり活動組織「寺井中心街活性化（てらかつ）協議会（以下：協議会）」が精力的に活動している状況を受けて，協議会設立までの経緯や，これまでのまちづくり活動を活性化させるためのポイントを整理した．

本資料は，今後，日本全国に点在する“観光や工業に特化しないまち”におけるまちづくり活性化を考える上での参考としていただけると幸いである．

２．てらかつ協議会の概要

協議会が活動を展開する寺井地区は，かつては九谷焼の一産地として賑わった能美郡旧寺井町の中心地であるが，近年では，日本全国に普遍的に存在する“偏りがないまち”としての印象が強い地区である．

協議会は，ソフト面から地区のまちづくり活動を活性化させることを目的に，平成 26 年２月に発足し，イベント企画などをはじめとした活動を展開している．地区では，平成 26 年度以降，都市再生整備計画事業に基づく整備が市により進められており，この事業で整備されるハード（街路や子育て支援センター，図書館前広場，公園等）の活用や，修景の検討等も協議会が担っている．

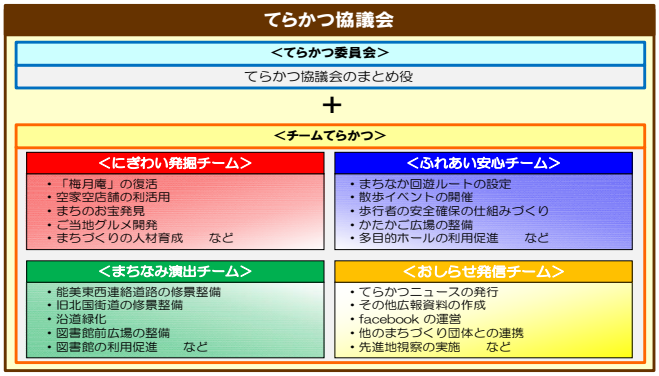

図１　てらかつ協議会組織図

協議会は，意思決定組織である「てらかつ委員会」と，まちづくりを実践する「チームてらかつ」から組織されている．チームてらかつは，「にぎわい発掘」，「ふれあい安心」，「まちなみ演出」，「おしらせ発信」の４つのチームで分担し，積極的にまちづくり活動を展開している．（図１）発足前の地道な公募と交渉が功を奏し，協議会発足時から多くのメンバーが活動に参加しており，平成 27 年 12 月現在，総勢 62 人体制となっている．

３．まちづくり活動活性化へ寄与した事項

3.1 キーパーソンの発掘と自主性の育成

協議会の発足に向けては，その前年度（平成 24 年度）より，地区住民や，九谷焼の関係者，教育・社会福祉団体関係者へヒアリングを実施し，まちづくり活動を主体的に実践できそうなキーパーソンの洗出しを行った．その後，キーパーソンを含めた市民を対象とする「地区の将来を考えるワークショップ」を合計４回開催している．ワークショップでは，地区の魅力と課題，今後のまちづくりの方向性を示す９つのビジョンが提言され，協議会発足までの道筋が示された．（図２）

ワークショップでは，各検討グループでキーパーソンを仕切り役として配置するとともに，検討の手順やタイムスケジュールなどを意識させるよう，検討開始時に十分なレクチャーを行い，参加者の自主性の育成に取り組んだ．

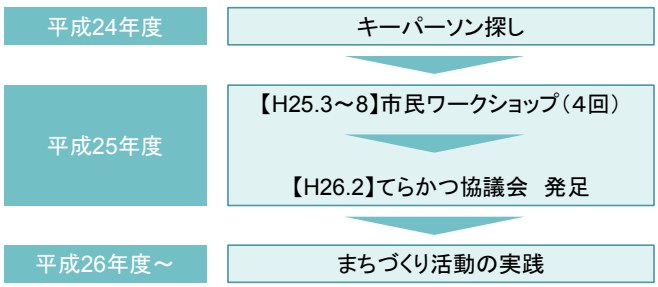

図２　まちづくり活動の実践までのフロー

3.2 「チームてらかつ」メンバー募集時の配慮

チームメンバーはチラシなどで公募（図３）するとともに，地区内に存する各団体の集まりにも直接出向いて勧誘し，いわゆる「宛て職」ではなくまちづくり活動に興味のある人がメンバーとして揃う土壌づくりを行った．

チームメンバーには，会社員やリタイア世代のほか，土木・造園業，店舗経営者，九谷焼関係者なども参加している．さらに地区の高校生や市内の大学生の参加を促すことで，イベント開催時等に若者の行動力と柔軟な発想力を生かすための体制を築いた．（写真１）

図3 メンバー募集チラシ

写真1 明かりのない空家を逆手にしたライトアップイベント

3.3 チームごとの検討における配慮

「チームてらかつ」の活動は，月に１回程度チーム単位で実施する定期的なミーティングとイベントなどの準備が主であり，ミーティングは公民館など比較的大きな集会施設を使用するほか，チームメンバーの自宅を無理のない範囲で交流の場として提供してもらい，和やかな雰囲気で検討ができるよう配慮している．（写真２）

また，まちづくりの検討にあたっては，グランドデザイン検討の声が自主的に上がり，様々な場面で活用されている．（図４）

写真２　住み開きの様子

図４　べんがら色決定チラシ

各チームで議論する内容には，一般の地区住民の声を確認し，その声を活かす取り組みを行っており，例えば，街路の歩道舗装検討時には，アンケート調査を実施し，その結果を持ってチーム内で議論できるように配慮した．また，まちづくりおよびハード事業の内容に関する検討では，近隣の先進地を視察し，チームメンバーが直接目で触れる機会を設け，その結果がそれ以降の検討に生かされている状況である．（写真３）

写真３　視察風景

写真４　ミーティング風景

４．現状と今後の課題

協議会発足後２年余りの月日が経過した現在，活動に継続して参加するメンバーが徐々に減っている一方で，新規参加者はほとんどなく，定期的に開催されるミーティングでの参加メンバーが固定化してきており，メンバー間で活動に対する温度差が生じている現状である．メンバーには，ご高齢の方も積極的に参加されており，これまで主要メンバーで蓄積したノウハウを他のメンバーに継承し，継続的なまちづくりを行う基盤を確立させることが課題となっている．

また，協議会結成後５年間は，行政から財政面，運営面で安定した支援が行われているが，平成 31 年度以降は，本格的に自立した組織としてまちづくりを行っていかなければならず，財源の確保等についても，早々に打開策を導き出すことが課題である．（図５）

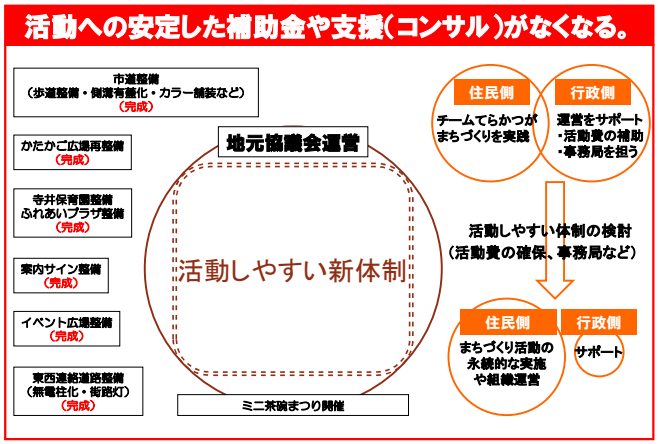

図５　平成 31 年以降の体制イメージ

５．最後に

本報告資料の作成にあたっては，平成 24 年度以降，能美市役所が発注する「寺井地区まちづくり活動支援業務」の成果を使用しました．ここに感謝の意を表します．